

実践報告資料

人権課題（子ども）

研究内容【(1)、(2) (3) (4)】

研究テーマ『情報モラル教育を通し人権侵害事象について考え、自他の人権を守り、課題を解決しようとする生徒の育成』
 学校名（篠山市立篠山中学校）

ア 人権教育としてのねらい

- ・ もっとも見えにくいネット上でのいじめを中心に、生徒たちの些細な言動から表情の裏にある心の叫びを敏感に感じる感性を高める。そして、生徒が人の痛みを思いやることができるよう人権意識の高揚を図る。

イ 研究の概要

- ・ ネット上での人権侵害事象や被害を受けている子どもが発するサインを見逃さず、未然に防ぐための校内組織の連携体制を充実させる。そして、生命、人権を大切にする生徒の育成を図るために、教員の研修を充実させ、指導力を高めるための研究。
- ・ 相手の顔を見て、コミュニケーションをする力、正しいことばで気持ちを伝えることができる「ことばの力」の育成の研究。
- ・ 情報機器の進歩により新たないじめが生じていることに留意し、新たな課題への対応についての研究。
- ・ 保護者への啓発のあり方や関係機関と連携した取り組みについての研究。

領域	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	国語担当	3年担任	2年担任	全担任
実施日	10月25日	6月13日	7月8日	7月3日
取組名	弁論発表	ネットいじめについて	若者の適切なネットの利用方法	ネットに潜む危険
目標	聞き手の立場や考えを想定し、説得力のある話を組み立てる。人に伝える文の内容を考え、感性や情緒を身につけ人の気持ちを思いやる豊かな人間性を形成する。 受け手の気持ちを考えずに発言をしていないか考えさせ、思いやりの心を持って聞いたり、話をしたりする力を育てる。	ネットいじめに対して、人を傷つけることの愚かさへの気づきを持たせ、人権意識を育む。 情報発信に責任を持ち、自分を律し適切に行動できる正しい判断力と、相手を思いやる心、ネットワークをよりよく利用しようとする公共心を育てる。	ネットの長所と短所を考えさせ、ネット依存の恐怖について知らせる。 個人情報取り扱い方について知らせる。 現実とネットのコミュニケーションの違いを考えさせ、ネット上で膨らむ暴言の恐ろしさや誹謗中傷について考えさせる。	昼夜逆転やネット依存などの悪影響と健全な生活を維持するために正しい利用方法を身に付けさせる。 安易な発信が将来の自分に悪影響しないために正しい判断力が必要であることを考えさせる。 人を中傷する情報発信をしない正しい行動力と人を大切にする心を育成する。
資料名	話す・聞く。 説得力のある提案をしよう。	DVD「加ースアップ 現代 ケータイが生む新たな“いじめ”」	DVD「インターネット×リアル」(千葉県県民生活課制作)	講演 兵庫県情報セキュリティ 篠原嘉一
指導内容や指導方法の工夫等	聞き手の方を見て、相手に伝えようとする話し方や視線、しぐさに気をつけながら発表させた。 内容を考えるときに、人を傷つける内容やことばで構成していないかを考えさせ、人を思いやることのできる文を作り、表現できるように指導した。	事前にアンケートをとることで、生徒が友達だけでなく知らない人ともネットつながり、その関係に翻弄され善悪の判断ができにくくなっている事実や、メール等で不快な書き込みをされたり、書き込んだりしたことのある生徒がいることを把握できるようにした。 発信する言葉によって、どのような人権侵害が起きるかを考えさせた。	最新の情報機器の問題をリアルに描いたDVD（千葉県県民生活課制作）を利用した。 生徒たちにインターネットが抱えている危険性について気づかせ、健全にネットを活用できるようにするために、10項目の内容を知識面と人権感覚を育む面に分けて活用した。	ラインの利用が増えている現状から、問題点や危険性を知るために学年毎の講演にした。そのため発達段階に応じた説明をしていただくことができた。さらに、聞く生徒たちも同級生の中でリラックスでき、その時々素直な反応をしたので実態を把握しやすかった。

